

この人 むつちゅう星

有限会社関乃井酒造 代表取締役社長 三代目 関勇蔵さん



本州最北に位置し、下北唯一。ゆえに、むつ市のうまいを語るうえで欠かすことのできない一献。この酒蔵を守る関さんは、創業125周年を経た今年、創業者の名を自身の祖父より襲名し、「三代目 関勇蔵」となりました。

名を改め、歴史ある酒蔵を守りぬく決意も深まった表情の関さんは、大学卒業後秋田県の酒卸問屋で4年間販売を学び、関乃井酒造に戻って30年が経とうとしています。

「今年も良い新酒が醸かもされました。」

三代目は、今年の新酒の出来をそう表現します。新米を用い、酵母菌を操作しやすい冬に造りあげる「寒仕込み」。お酒を造ることを「醸かもす」と呼ぶその昔ながらの表現に、変わらず受け継いできた技と自信が現れます。

今後の展望を伺うと、「みなさんに愛される地域に根ざした地酒、これは変えたくないですね」と頼もしい言葉。伝統の味を守り続ける一方で、最近では、生酒の製造にも力を入れていくとのこと。今後が変わらず、さまざまな美味しいお酒を楽しむことができそうです。

今年も、むつ市のうまいに乾杯。

むつ市観光遊覧船「夢の平成号」情報

むつ市観光遊覧船「夢の平成号」が4月15日から新年度の運航を開始します。

むつ市脇野沢港を出港し、国の名勝・仏ヶ浦を周遊する夢の平成号は、仏ヶ浦へ向かう船上から下北ジオパークのジオサイトである焼山崎において落差300～500mの急峻な断崖で赤褐色に変色した岩肌が仏ヶ浦の白い巨岩群に姿を変えて行く変化が楽しめます。

今年度はイルカウォッチング試験運航と貝崎周遊コースでの鯛島上陸ができるようになります。

イルカウォッチング航路は野生のイルカを見に行くコースであるため、ご覧いただけない場合がありますが、約1時間の遊覧です。

鯛島上陸は海鳥の子育てに影響がないよう、7月から運航で、貝崎を周遊し、鯛島に30分上陸して約80分の航行となります。鯛島は脇野沢の約800m沖合にある1200万年前に火山の噴出物からできた無人島です。イルカはもちろん、鯛島はオオセグロカモメ、アマツバメなど海鳥が繁殖のために飛来する場所でもあります。そのため、生き物たちのストレスとならない観察方法を確立していくのがこれからの課題です。



◆貝崎周遊航路 7月22日(土)～10月15日(日)

1日1便 午後1時出港

◆イルカウォッチング航路 5月3日(水)～6月18日(日)

1日1便 午前9時出港

◆仏ヶ浦遊覧航路 4月15日(日)～10月15日(日)

1日2便 午前10時45分・午後3時5分出港

関市観光振興課

☎ 22-11111 内線2644